

## ●令和7年度歴史民俗資料館運営委員会第1回議事録

開催日時：令和7年（2025年）7月9日（木）15:00～

場所：利根町図書館 2階会議室

参加職員：海老沢教育長 亀谷課長 飯田係長 宮崎主査

運営委員：高野博夫（委員長） 二木祥子（副委員長） 奈良浩伸 久保田敏弘 長瀬一平

古田吉光 高橋勝正（敬称略）

### 【司会（飯田係長）】

定刻より少し早いですが皆様お集りいただきましたのでこれから第1回町立歴史民俗資料館運営委員会を開催したいと思います。本日は皆さまお忙しいところをお集りいただきまして誠にありがとうございます。本日、委員会の司会を務めさせていただきます生涯学習センターの飯田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。以降は着座にて失礼いたします。ではまず本日の資料ですが、お手元に令和7年度利根町歴史民俗資料館運営委員会会議次第と書いてある冊子が1冊ございます。本日の会議資料はこちらになります。続きまして教育長よりご挨拶を申し上げます。海老沢教育長お願ひいたします。

### 【海老沢教育長】

はい、暑い中またお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。歴史民俗資料館運営委員会、この会はこれまで社会教育4団体の教育会、委員会合同でおこなってきましたのをそれぞれ開催することが昨年よりなりました。その背景には2年前のみんなの町基本条例の意向がございます。町の憲法と言われる利根町みんなの町基本条例。この趣旨は住民参加の町づくりをうたっております。歴史民俗資料館をどのように運営して発展させていくのか、この委員会で話し合っていただき、具体的な改善策を練っていただくことになります。歴史文化、私たちの生活を豊かにしてくれています。利根町規模の自治体でこのような歴史民俗資料館を設置しているところも少ないのかなとも思います。それだけ利根町には歴史的にも貴重な遺産が数多く残されているということも言えると思います。委員の皆様も歴史文化に精通されている方々ばかりですので是非お知恵をお借りしたいと思います。有意義な会となりますようよろしくお願ひ申し上げ挨拶にかえさせていただきます。よろしくお願ひします。

### 【司会】

続きまして事務局に異動がありましたのでご紹介いたします。課長お願ひします。

### 【亀谷課長】

はい、4月から生涯学習課のほうに参りました亀谷と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 【飯田係長】

生涯学習センターの飯田と申します。よろしくお願ひいたします。続きまして委員の皆様に

も恐れ入りますが、ここで自己紹介をお願いしたいと思います。高野委員長からお願ひいたします。

【高野委員長】

高野です。よろしくお願ひいたします。

【二木副委員長】

二木です。よろしくお願ひいたします。

【古田委員】

古田吉光と申します。よろしくお願ひいたします。

【久保田委員】

久保田敏弘です。よろしくお願ひいたします。

【奈良委員】

奈良です。よろしくお願ひいたします。

【長瀬委員】

長瀬です。よろしくお願ひいたします。

【高橋委員】

高橋でございます。よろしくお願ひします。

【司会】

ありがとうございました。続きまして高野委員長よりご挨拶いただきたいと思います。

【高野委員長】

はい、高野です。よろしくお願ひいたします。前回の運営委員会ですね 11 月 28 日におこないました。この時の結果はですね、事務局の宮崎さんの方から議事録にまとめていただきまして、委員の先生方のほうに届いているかと思います。この時大変ですね、有意義なご意見を先生方から頂戴いたしました。本日はですね、この意見を踏まえまして資料館の運営が、前に進んでいくように貴重なご意見をまた頂戴したいと思います。よろしくお願ひいたします。

【司会】

はい、ありがとうございました。それではここからの会議進行につきましては会則によりまして高野委員長にお願いいたします。

【高野委員長】

はい、それでは早速議題に入りたいと思います。議題の第 1 番、令和 6 年度の運営状況の報告について事務局よりお願ひいたします。

【宮崎主査】

資料館宮崎です。昨年度から引き続きよろしくお願ひいたします。着座にて失礼いたします。皆さんのお手元にあります資料、名簿の次のページをご覧ください。年間来館者数からご覧ください。昨年度は開館日数 246 日で来館者数 861 名となっております。ご覧いただくと突出しているのは 4 月、5 月、8 月、9 月ということでこちらはまあウェルネス大学とか利

根小とか、あとは役場の新人職員とかが見学に来たりというので、若干その数字が跳ね上がっているということになっております。夏場、ウェルネス大学のオリエンテーリングというのを昨年、急にありましてその時にこの 100 人単位で来てくれたわけなんですけど。今年もあるかどうかはちょっと不明です。ちなみにですね、今年度 4 月は 32 名、5 月 82 名 6 月 69 名の来館者で 183 名となっておりまして、概算で計算しますと 700 名ちょっと、前年度を下回るという感じになっておりますが、営利目的の資料館ではありませんので、頑張りたいとは思いますが、その現状報告から少し話がそれますが、資料館の周知や広報活動にもう少し力を入れようかなと考えております。昨年度も FaceBook や Twitter などを利用しまして、「今、柏市にかっぱのねねこが貸し出されています」「ねねこ戻ってきました」などというようなことを、さりげなく告知して歴史民俗資料館の存在を周知しましたところ、まあ実際その町内の来館者の方でも歴史民俗資料館なんていうところがあるのは知らなかった、とおっしゃる方がかなりな数おりまして、あの特例ですが、先日町内の方と話した時に、センターに用事で行って資料館探したけど見つからなかったという珍しい方もいらっしゃるので、広報活動と言うよりもそれ以前にセンターの中でちょっとした看板とかつけたいなとも考えております。話それました、申し訳ありません。それから引き続きですね、その周知活動ですけど昨年度このようなチラシを作製したんですけど、まだこれ配布しております。ですからこれを役場、図書館、文化センター、あと高齢者施設とかいろいろなところに置いたらどういう効果があらわれるかと期待できると思います。それでは次の 3 ページ目お願いいいたします。こちらは令和 3 年度からの来館者数の推移が一目でわかるということで、12 月、1 月に関してはなぜか入館者減となります、このへんはちょっとこれから調査し、どうにかならないかなとも考えてみたいと思います。それから 4 ページ目、こちらは地域別の来館者数です。5 年度から 6 年度にかけて町内の方の来館者が増えているのがよくわかると思います。そして 5 ページ目いきます。昨年度の資料館の運営状況等に関する説明ですけれど、お読みいただけるとわかると思いますが、維持管理、機械警備の委託、消防設備点検委託をおこない、職員配置としましては課長 1 名、生涯学習課職員 1 名、それから再任用職員、大塚主査ですね。3 月に退職されましたけど 1 名。そして常設展の展示などの主な内容として縄文土器、仏像、古文書、デジタル絵馬、地固め唄保存会資料など、赤松宗旦、杉山東山、小川芋鉢、柳田國男のコーナーで作品などを紹介展示しております。昨年度新規模様替えとしましたとして柳田國男のヨーロッパ行の宴のパネルの掲示、これを新しく掲示いたしました。そして小川芋鉢の画室写真のパネルを刷新しました。それから YouTube を使って、展示室案内ナビを開設しましたが、なかなか利用してくれる方が少なく、4 月か 5 月だったと思いますが、その音声データを利用して館内放送のシステムがまだ生き残ってましたので、それを使ってですねもう館内に流すという手段をとっております。先日も来館者の方から非常にわかりやすくて助かったというご意見いただいておりますので、こちらの方がよかったですということで、今年度はそのような館内放送として案内ナビを流しております。それから継続業務、昨年度の業務といたしまして古文書のスキャン作

業、ファイリング導入前の町の公文書の選別分類作業。こちらのほうは大塚主査がやり終えています。令和6年度の運営譲許に関しては以上です。

【高野委員長】

はい、ありがとうございました。ただいまの説明につきましてご意見ご質問等がありましたら挙手をお願いいたします。

【奈良委員】

すいません、YouTubeで（案内ナビ動画は）見れるんですよね

【宮崎】

はい、まだ残っています。

【奈良委員】

利根町歴史民俗資料館で検索したんですが。

【宮崎】

来館者の方のみが見れるような「限定公開」（←YouTube仕様）という形にしています。ですから資料館の入り口のQRコードがありましてそれを読み込むと。自宅で見られてしまうのはちょっと。是非来てくださいということです。一応内容としては単純なスライドショーで、音声の方に重点をおいています。（スマホを耳に当てて）こういう感じで聴きながら館内を見て回っていただく趣向になっております。

【高野委員長】

他にどなたか。

【久保田委員】

聞き洩らしたかもしれないんですが、一番最後の公文書のところ、ファイリング前の町の公文書の選別分類作業。

【宮崎】

はい、それら終了しております

【久保田委員】

上の方は終わってないんです？

【宮崎】

スキャン作業はまだ継続します。

【久保田委員】

ちょっといいですか。4ページ目の来館者数の比較なんんですけど、令和6年度の利根町なんですけどこれは急に増えているんですけど、コロナが収束に向かっているっていう考え方でよろしいですか。

【宮崎】

はい、私は6年度から入ったので5年度の状況がよく知らないんですけど、おそらくウェルネス大学の新入生オリエンテーションかで大挙来てくれたのが要因と思われます。

【高野委員長】

他にどなたか

【古田委員】

はい、年々あのいろいろと例えばYouTubeでの展示とか、それからあとさらにファイリング、スキャンとかねそういうデジタル化すすめて大変だと思いますがよろしくお願ひします。それでですね、今あの質問があったようにせっかくホームページ、利根町歴史民俗資料館で検索すると出てきますのでそこにうまく何か今度は次にリンクしていくと宣伝、住むと言ってもなかなか難しいと思うんですけど、そうすると今度はさらに知名度もこれから特にこう、若い子たちもしかしたらということもあるので、進めてもらえるとありがたいなと思います。ゆくゆくはせっかくスキャンしていますので、民俗資料館で持っている古文書、その目録くらいは全国に配信できれば、そうすればその見せてもらいたい人、電話してあるいはこうメールで許可証を発送して、館長の許可を受けたら添付してお返しますなんていうようなことをゆくゆくはね、なかなか予算の関係、1人じゃなかなか難しいと思うんでもうデジタルの時代に入ってきますんで、さらに進めていただければ、より広範囲のアクセス、インターネットのアクセスもカウントしてもいいのかなという感じもしないでもないです、はい。引き続きよろしくお願ひします。

【宮崎】

ホームページのほうはすぐにやりますので。

【古田委員】

まあいろいろアイディア考えて。宮崎さんの持てるアイディア、能力を十分発揮していただけばなと思います。

【高野委員長】

せっかくね、宮崎さんみたいな人が担当で来ていただいているわけで使わない手はない。ほんとにあの入場者数の話で言えば、まあ交通の便が非常に悪いんですよ。客観的に見てね。だから一番いいのは来ていただいて現物の、現資料を見ていただくのが一番いいわけですけども、そうは言ったってみんながみんな車持ってるわけではないですから、そういうた方向に対して、やっぱり今の時代ですからインターネット、SNS、これは非常に有効な手段だろうと思うんですね。もちろん1人ですからあれやこれや言われたってそれは間に合わないよと、もっともなんんですけどやっぱりあの利根町の郷土資料館なんかについてSNSは非常に有効だと私は考えております。

【宮崎】

バーチャル来館ですか

【高野委員長】

今、デジタルミュージアム流行りです。

【宮崎】

来てもらいたいんですけど。

【高野委員長】

もちろん来てもらって見てもらいたいんですけど。

【古田委員】

県の方のデジタルアーカイブの中で、そういうミュージアム？仮想ミュージアムを作って、どんどん入ってくれっていうのがあるんですよね。ただそこまでいくにはかなりこっちが揃ってないと入れないんで。まあゆくゆくはおそらくそういうふうにデジタルの中で。

【高野委員長】

古文書をですね公開する場合する場合はですね、なんかちょっと見ないといけないですね。要するに同和関係？人権関係？そういうものが入ってる古文書もありますので、それについては役所が責任持ってふるいにかけないといけないというところは出てくると思いますね。

【古田委員】

いろいろハードルがいっぱいあるけど。越権行為ですけど、宮崎さんを年齢でもって切っちゃうんじゃないなくて。能力のある方を、ということで。

【高野委員長】

今ね、定年延長という時代でようからね。

【古田委員】

余計なことですけど。

【高野委員長】

運営譲許につきましてはよろしいでしょうか。それでは続きまして議題の2番、令和7年度の予算等概要について説明をお願いいたします。

【宮崎】

はい、6ページ目をお願いいたします。一枚ですので読み上げます。令和7年度事業方針等、1、資料館設置の目的等、町の民俗文化財および物、文書等の歴史的資料の保存展示とともにその活用を図り、郷土の歴史と文化に対する町民の知識と理解を深め、以て文化の振興を図る。というわけなのですが、特別変わったところではありません。本年度の事業方針としまして、隔年でおこなっている燻蒸作業の年になりますので秋口に数日間ないし1週間程度休館となります。こちら事前の周知も例年通りおこないます。それからですね、3番の展示室の模様替え、新規の取り組み、こちら小川家家系図のパネル、立木貝塚の実測図、こちら2点刷新を考えておりますが、次のページの印刷製本費のところをご覧いただきますと若干減っておりますので、この2点できるかなという感じでこれは印刷所と相談してみます。それから6ページの3番の、かっこ3番、展示室の解説館内放送、」こちらは先ほど申し上げた通りです。それから4番目、継続業務、古文書のデジタル化に向けたスキャン作業を引き続きおこなっております。実際1年3か月ほど作業しまして、いろんな業務が入りつつも概ね1か月に1000枚程度はやっております。高野さんたちが以前封筒の中にその古文書を入れてくれたんですが、その封筒に何枚入っているかは別ですけれどとにかく

くそこから私は出して一枚ずつやって概ね 1 か月 1000 枚程度かなというところです。それから事業方針は以上ですが、予算の方の概要いかさせていただきます。最後のページです。こちらはですね、消耗品光熱費等は現状を予測（物価）されているのか増となっておりますが、先ほど申し上げた印刷製本費は減。それから燻蒸費用がまあ今回入っているということで、それ以外に関しては特筆すべきところはないです。前回、昨年度の運営委員会第二回で会計年度職員いなくてだいじょうぶかという話題が出ましたが、一応私 4 月から 1 人でやっておりますがセンターの職員とも連携を取りまして、まあどうにかやれておりますということをご報告いたします。それから昨年予算計上したんですけどフィルムスキャナーに関してはダメということで、まあそれは書かれておりません。それ以外に関しては特筆すべきことはありません。以上です。

【高野委員長】

はい、ありがとうございました。ただ今の説明に関して何かご質問ご意見等がありましたら。

【古田委員】

令和 7 年度の事業方針の中の 3 番、かっこ 1、小川家の家系図、確かにあのちょっと細かすぎて小さすぎてわかりにくいという。。。それでその関連で実は私ある歴史探訪会にかかわっておりまして、探訪会の方で柳田國男の岩波文庫の利根川図誌、その最初が柳田國男が利根川図誌の解題を描いているんですよ。つまり赤松家の家計とか小川家のこととか、それから川の当時の、自分が来た時の様子とか、こう描いてそれで利根川図誌のこう、要するに背景というかね、そういうのも描いているのでそれを作ったんですよ。自分たちで読み合わせして。その中に小川家の家系もちょっと作ったのを入れたりしたんですけど、もし何か役に立てばその解題の活字化したものを持ってるんですよ。まあ会の中でもしまい込んでやったんだけど今これ見て、何かデータを会で了承を得て自由に使っていいよ、ただし茨城文庫にこういうのをやるっていう許可をもらわないとオープンにはできないので、それをもらえれば 1 つの反響っていうかな、アピールすれば見に来る人とかそういうのもいるのかと、全国的に知れたまあそういうのはうまくいくのかわかりませんけど、もしよろしければそのデータを探訪の会で了承を得てお渡ししたいと思います。以上です。

【高野委員長】

他に何かご意見ありますでしょうか。

【海老沢教育長】

今の古田先生の岩波文庫の本の名前を教えてもらえますか？

【古田委員】

岩波文庫の利根川図誌という、もう絶版なんんですけど、文庫本で、ずっと出ていたんですけど、その本の最初のほうに柳田國男が利根川図誌の事について改題といういろいろ描いてるんです。それをあんまりにも漢字も昔の漢字なんで、活字化しようということで実は探訪の会で活字化して、じゃあ解説もつけようよ自分たちで、解説もつけたんです。一通り読み終わって、終わりましたねシャンシャンでおしまいにして仕舞っちゃったんだけど、もし活

かしていただければありがたいという意味です。

【海老沢教育長】

文庫本で利根川図誌が出てると言うのでこの間、本屋さんに聞いたらもうありませんって。

【高野委員長】

本屋にはないかもしれませんね。資料館とか図書館にはもちろんあります。

【古田委員】

あれ、難しすぎて今の人たちには難しいですね。漢字も取りつきにくいし。ある程度、目が、若いうちならいいけどだんだんとね。

【二木委員】

眼鏡かけても、ねえ。

【古田委員】

おそらくいいという可能性も高いですよね。それを活字化して解説を改題して用語の、こういうのを作つて監修したんだけど、っていうのが岩波にあれば。おそらく絶版になつてゐるんでもちろん「しゅうへんけん」はいっぱいあるけども、ただそれを写植するわけでもないから、全部打ち直してからどうなんだろうか。まあそういう余計な話でした。情報まで。

【高野委員長】

ありがとうございました。他に何かありますでしょうか。

私からひとつ、パネルが新しくなつてすごくいい感じになつてきたと思いますけど、役所のプリンタでやつただけのやつをパネルに貼つたやつだとどうしても劣化しちゃいますから、あの随時新しくしていただければ、よろしくお願ひします。それからもうひとつ、前回の会議で資料館がもうかなり建つてからかなり時間が経つて、その地震等の災害に耐えられないのではないかとご意見いただいたと思うんですけども、なかなかそう言ってもいきなり修理と言ってもね、なかなか今どこの自治体も財政的に余裕があるわけではないので、厳しいのでとりあえずその耐震診断、診断の予算だけでも何とかとつていただいて、その結果を元に、その結果が良ければいいんですけど、これはもうもたないと言うことであれば、その結果を元に予算要求していただくという感じですよね。その辺を今度の予算要求の時に反映させていただければ。

【奈良委員】

今の委員長の話の補足なんですけど資料館だけじゃないと思うんですけど。いわゆる不特定の方々が多く入場するような結構大きい建物で、多分建築基準法でいうと特定施設と言われて、ちょっと特別な扱いで通常3年に1回くらい簡単な調査してくださいねと、例えばタイルが落ちてこないか、手の届く範囲でタイルの打診(?)の検査してくださいねとか。でも10年に1回は大規模なその硬度(?)調査、全体的な、要は高層ビルなんかでいきなり物が落ちてくると危ないんで、そういう調査してくださいねっていうのが多分あると思うんです。公共施設だから特別やらなくていいっていうことではないと思うんです。各施設それぞれなりの調査、耐震も含めて。

【高野委員長】

最低、調査だけはね。やっぱりやらないとまずいだろうと思うんですね。

【奈良委員】

予算要求する時になんかそういった法的根拠か何かを見つけていただいて、10年に1回はやるしかないんだよとか、何年に1回はやるしかないとか、そういうのが見つからなければやっぱり委員長が言ったように、これだけ経っているんで調査しないとまずいっていう予算要求してもらえると。

【宮崎】

昭和57年の築でしたか。

【高野委員長】

その間に補強工事とかやってないですよね。

【飯田係長】

入口の部分は階段からスロープに改修してあるぐらいで。

【奈良委員】

耐用年数は超えちゃっている感じだと思うんですよ。

【飯田係長】

町の方で一斉に施設の点検等をおこなって、その個別施設計画と言うのを出しているので、そちらの計画書の方を今一度資料館のほうにはどのように書かれているか確認してみたいと思います。

【亀谷課長】

各施設はさっき言っていた3年にいっぺんの点検とかやってんですか

【飯田係長】

はい、資料館は対象外のようなんんですけど、特殊建築物の報告と言うのが3年程度に一ぺん必ず県に報告しなきゃならない書類がございますので、図書館も含め文化センター、生涯学習センター、それぞれ施設ごとに委託業務を実施しています。

【奈良委員】

3年に1回定期検査ってことで報告義務がある。たぶん10年、何年か前にたぶん法律改正があって10年に1回は大規模な調査をしなければならない、たぶん改正したような気がするんですよね。ちょっとそのへん（聞き取れず）間違っているかもしれない。

【飯田係長】

資料館に関しましては、その定期報告の対象になってないということに。

【高野委員長】

こんなことを言ってはなんんですけど、どうしてもその入場者数、見られちゃうと思うんですよ。ですからこの会でそこらへんはちゃんとその、訴えていただかないと多分洩れちゃう可能性がありますので、ひとつよろしくお願ひいたします。

【奈良委員】

燻蒸業務？3年に一回ですか。

【宮崎】

2年に1回です。隔年です。

【奈良委員】

2年に1回で。これってあくまで資料館の物だけで、例えば利根町でそういった古文書持つての方、まあいるのかいないのかわかんないんですけど、そういった方々に声をかけていっしょに入れてやってもえらえるか、昔そんなことをやったようなやってないような思いが。

【高野委員長】

個人的に持っていて？

【奈良委員】

持ってる方に、要は資料館にこういうことやるんで古文書持っている方は持ってきてくればいっしょに燻蒸しますよみたいな、もうなんか（聞き取れず）運営委員会なんかでやったほうがいいんじゃないかというのは言われたことがあって。

【高野委員長】

まあ持っていれば空いてるスペースに置いておけば燻蒸はできますよね。

【宮崎】

前回か前々回の燻蒸作業の時に、他の施設？他の課からこれを燻蒸してくれというのはやったと聞きましたが、民間に周知したかというのはしてないと思いますね。あ、図書館の蔵書。

【高野委員長】

民間でそういう資料がまとまる家ってあるんですかね。

【奈良委員】

お寺とかぐらいだと思うんですけど、お寺ももう（聞き取れず）なくなっちゃってるんで。

【長瀬委員】

私の家で先祖が書いたものがあって、延岡（？）市史を新しく作るというんで延岡市のほうに出したことがあるんですけど、去年？おととしの3月からうちのその、家の歴史なんですけどそれを出したというのがあって、それを書かれたものが1番最後の記録が明治13年かなんか、書き始めは、まあしっかりした冊子になっているんですけど、いわゆる、まあそういうのを入れておいてもいい紙があるじゃないですか。その袋に入れて、それで、シリカゲル入れるんですけど、もしそういう燻蒸というのは初めて聞いたのでそれに参加できるのはうれしいですよね。ただ利根町のものではなくて、延岡市の。記録としては延岡市になるんですが。

【宮崎】

現状、仮にそれを周知したとしてどれくらい集まってくるかがまず予測できませんし。

【奈良委員】

訳わかんないのまで来ちゃう可能性ある

【高野委員長】

ただあの、展示スペースであれば場所はありますよね。

【宮崎】

そうなんです。場所はあります。

【奈良委員】

収蔵庫は無理でしょうけど

【宮崎】

はい、無理です

【奈良委員】

うん、ただもし把握してるところがあれば把握してるところだけでも、声かけして。「(燻蒸)やりますね」って。

【宮崎】

ピンポイントでいいんですかね

【奈良委員】

だめかな

【宮崎】

やはり役場としては平等性が担保できないとまずいですから、全周知したとして申し込みの上審査をするとか。これはちょっとご勘弁くださいとか、これはぜひ燻蒸しますとか。

【高野委員長】

これはちょっと勘弁してくださいっていうのを持ってくる人っていますかね。現実的に。

【宮崎】

いると思います。

【奈良委員】

まあ仮にそういうんだったらどこかで流して、限定? こういったものだけですか。

【宮崎】

限定はいいですよね。はい、では参考にさせていただきます。

【奈良委員】

企画展は資料館ではやらないんでしたっけ?

【宮崎】

現状、話はないですね。たださきほど古田先生も言われたようにスキャンした古文書を選別して見せたいなと言う思いはあるんですけど。まあもうちょっと先だと思います。

【奈良委員】

せめてその目録だけでもホームページとかで、公開でもしたら。委員長の言われたように精

査しないとまずいところもあるかもしれない。

【高野委員長】

無条件で公開と言うのはなかなか大変ですよね。そんなことやってる自治体はないと思いますよ、きっと。まあ利根町を代表するような資料、あの報告して、まあ写真とて解説を入れて、あの公開するって感じなんですかね。

【宮崎】

人別帳とか借用証とか見せてもしようがないと思うんですけど。

【高野委員長】

見せてもしようがないものをやったってしようがないですから。

【古田委員】

私、実は船橋西図書館、船橋の西側にあるんでしょうね。そのところで利根町にすごく関係する資料を見つけたんですよ。インターネットで。あの、玉堀っていう赤松宗旦といっしょに旅行して絵を描いた人物。利根川図誌にも初版のほうには絵を描いてるんですけど、その玉堀の主催した来見寺での書画会のチラシなんですよ。それを見ると東京のお偉い先生方、漢詩でも絵もそういうお偉い先生がたを来見寺に呼んで、書画会を開く、それで近隣の要するに文人、ある程度の豪農、豪商でしょうね。その人たちを呼んで要するに書画会を、一日限りの書画会、売り買いですね。その「補助」の中に宗旦とか伊勢屋とか、あの辺のお大尽さんが「補助」として名前が載っている。それを見るとどこで一体それを呼んだのか、東京のどんな人を呼んだのか調べられるんですよ。それで実際、自分はそれを見つけたので電話して写真とさせてくださいと、申し込んだんですけど、そうしたらわざわざ来ることはありませんよと。申請書をまず送りますからそれをきちんと書いて、またメールで添付して送ってくだされば、そして館長の許可を得て、そして資料といっしょにまたメールで添付してお送りしますと。オープンにしていいような資料は表に出すと色々使わせても今からそれを私ちょっと今、調べているんですけど、使わせてもらえる、使ってもらえるのかななんて一番赤松宗旦のあの文書の中で、けっこう絵もあるんですよね。そういう絵なんかは了承、オープンにするのには、どうだったっけ。貸し出すのはあったんですよね。資料館の方でね。あの許可をどんどん出してね。それをオープンにした場合に許可いるのかどうかまで私わからんんですけど、あの、太田さんの娘さん。

【宮崎】

一応、赤松家に関しては昨年度大塚主査が寄贈にしますので。

【古田委員】

じゃあ町でOKすればだいじょうぶだって、オープンにどんどんできるわけだね。

【宮崎】

すいません、昨年度の業務報告で言うべきでした。申し訳ないです。

【古田委員】

いやいやそれで、そうすると資料を船橋西図書館みたいに許可を得たらお送りしますと、イ

ンターネットに出てるのはちょっと拡大するとボヤけるんですよ。ボヤけるから資料としては使いにくいんで画素数の大きいのを今度送ってもらう。ということをすればもう少しこう赤松宗旦も、あと他に必要な文書、吉濱家の文書の中でも地形の地図とかなんとか、いろいろ表に出してもいいようなものもあるのかなと思って見たりして、行く行くは。

【高野委員長】

船橋西図書館はバブルの時に相当買い込んでいるんですよ、あれ。神田の古本屋かなんて。だから俺なんかも元の職場で相当使わせてもらいました。「こがねまき」(←聞き取れず)の資料だとか、ものすごくあります。あれは初めから船橋にあったわけではない。多分、今、吉田先生が言わされたのを買ったんじゃないかと思います。船橋にあるはずないですもんね。

【古田先生】

まあ少なくともバラまいたものが、下総の国の端っここのほう、布川の町にあるというのはすごく素敵だなど。

【高野委員長】

元々、船橋にあったわけじゃないものをすごく金出して買い込んだんだから、これは当然みんなに還元すべき。

【古田委員】

そう、(聞き取れず)の話まで持ってっちゃいましたけど。

【奈良委員】

古田先生とかおっしゃる通り、僕も企画展なんかやるとネットでいろいろ調べて、それこそ奈良県とか資料をそこまで。

【高野委員長】

今はね、極端なことをいうと世界中どこでも。まあ怖さもありますけど。

【奈良委員】

なんか利根町にも見せてもいいような、中身をちょっと公開して、将来的には、あの検索ヒットかかるように、検索しヒットかかった人が利根町に来てもらう。

【高野委員長】

利根川図誌なんかはね、ほんとに利根町が誇る資料ですよね。どこへ出したってはずかしくないですね。日本中ね。それはやっぱりネットで発信できればいいですね。

【古田委員】

今はね、香取さんが撮影権とか全部放棄して、教育委員会へ全部あずけてある。だから教育委員会がOK言えば。

【高野委員長】

あれだけやったら金がかかっちゃってしょうがないですよ、業者に委託したら。

【奈良委員】

カメラなんて何百万ですからね

【高野委員長】

あれはすごい、プロ級ですから。

【奈良委員】

くだらないこと言っていいですか？これ僕、昔、担当してた時からそうなんんですけど博物館協会、加入してるっていうようなあるかなっていうことが疑問に思いながら、よく言ってたんですけど、歴史民俗資料館の連絡協議会はそれなりにやっぱり民俗資料館同士の交流とか意見交換とか。博物館協会はどうなんだろうなみたいなところがあるんで今後もしあれだったら検討して、たかだか8千円くらいの会費だってなんてことないと思うんですけど。まあイベントの時とかポスター送って交換しあったりとかいろいろあると思うんですけど。

【宮崎】

ちょっと調べてみます。

【高野委員長】

他に何かありますでしょうか。それでは3番目のその他、事務局であるでしょうか。

【宮崎】

はい、今年、秋からの予算の計上に關しまして先ほどの耐震診断の予算のご意見に加えましてですね、昨年の運営委員会の第2回の運営委員会で、町民の方向けの講座として「古文書を読もう」というのを憶えておられる方いらっしゃるかなと思うんですけど、そちらですね、ぜひ講師として高野さん（委員長）とか二木さん、できますかね。

【二木副委員長】

できません

【宮崎】

では高野さんに講師、全面的にお願いして。古田先生できますかね。

【古田委員】

高野さんが読めんだから。

【宮崎】

最近ですと大河ドラマで「べらぼう」で彫ったやつですよね、明朝体のかなりかっちりした我々でも読めそうなやつがテレビにバンと出ますけど、あの、メモ書きのような、崩し字と言うんですか、あれを読めるというのは相当なもんだなと思いますので、ぜひとも初步的なところから高野先生に教えていただけるんでしたら、予算、謝礼としてお金を組みましてちょっと上申してみたいな、計上してみたいなとは思っておりますので。

【高野委員長】

せっかくね、資料館があって資料があるわけですから、これやっぱり市民の皆さん、町民の皆さんにね、見ていただいて利根町を理解する、保存するってことは大事ですけどね。そうするだけではちょっと、もったいないのでどんどん活用していったらいいと思いますね。まあ最初は当然初級コースですよ。ほんとうにやったことないけど、利根町の歴史を知りたい

よって人集まってくれいでいいと思うんですけどね。ある程度、定員、あの町外の人だつていいと思うんですよ。まあ町民優先ですけどね。あの、町外の人であってもまあそんなケチくさいこと言わないで。で、利根町ってすごいなと思うのは、講座ってみんなタダなんですよね。これすごいですよね。

【古田委員】

ふつう取るもんね

【高野委員長】

金取りますよね、ふつうは。利根町ってほんとタダなんで、それはいいなと思いますけどね。

【宮崎】

じゃあ一応、費用も。

【高野委員長】

予算ついたらいいですよ。

【宮崎】

はい、わかりました。ありがとうございます。こちらとしては以上です。

【古田委員】

まあその絡みじゃないんですけど、古文書も町内だけに限るとおそらく10人くらい、町外まで広げるとやっぱりけっこう集まると思います。龍ヶ崎はやってないもんね。確かに古文書は。

【奈良委員】

あ、そうですか

【古田委員】

やってないですよ。今はもうやってない。前はあったようですけど。

【高野委員長】

まあだから最初は町民の方優先でいいんじゃないですか。

【古田委員】

で、他の講座も町外の人は金取ってなんて、これは国境（？）には関係ないですよ。資料館運営には関係ないんだけど、私のやってる、やらしていただいている講座なんかは町外の人にも参加したいっていう人いるんだけど、町民優先だからダメだって言ってるんですよ。だったら金取って町外の人っていう今言う話ではないけれど。一回500円で年間9回だから4500円。5000円もらって参加してもらうとか。よけいな話だけど。

【高野委員長】

会費は取らないで済めばそれにこしたことは。

【古田委員】

それにこしたことはないけど。

【高野委員長】

ただまあ正確に言えばそれはあの、資料代であって、タダってことはないわけですから。

【古田委員】

そうですよね。

【二木委員】

子どもにつられて町内の人も来るかもしれない。

【古田委員】

そうなんですよね、つられてね。

【高野委員長】

ありがとうございました。他にあの何かありますでしょうか。

【奈良委員】

一点だけ。資料館、委員長の言う通り、保存だけじゃなく活用という重要になってくると思うんですけど、できれば、できればというか小学校、中学校あたりとも連携をつけてほしいのかなと、昔、言われたのが修学旅行前に、奈良とか京都行く前にちょっと資料館で、見てもらって利根町のものと向こうのやつを比較してもらうとか。あの、やっぱり修学旅行でいきなり行っても何がなんだかわからず、見てくるだけになっちゃう、資料館あたりで軽くちょっと勉強してから修学旅行行くと違うんじゃないかななんて、担任の先生に言われたことがあります。僕ちょっと仏像そんなにくわしくないんですけど、20年ぐらい昔、町内の仏像全部調べたことがあるんですね、先生といっしょに歩いて。やっぱりその薬師如来とか、阿弥陀如来とか立像だの座像だの、座ってるもの立ってるもの。いろいろこう名前の付け方、ああそうなんだ、面白い結果あったんで、なんかそのたかだか仏像だけでもこういろいろ種類があるんだよみたいな形で見にいったところのやつは薬師如来だとか阿弥陀如来だとか、そうするとここにどういう種類？（宗教？）そこまではいいかもしれないんですけど、なんか小学校と授業と、そのイベントにしたものでなんか資料館が協力できるものがあれば、あれでいいのかなって有効活用できるのかなっていう、ちょっと昔から課題だと思って、実際僕あんまりできなかったんですけど、もしそういうのができればちょっと検討してもらえればいいかなと思います。

【高野委員長】

まあ、なんていうんですかね。教科書に出てくるような、その、日本の歴史と利根町の歴史をくっつけ、どんなふうにこれくっつくんだいっていうのは多分我々の仕事だと思うんですよ。それ説明するのはね。あの、それはいいと思います。今、あの、小学校とか中学校の修学旅行とかどうやってんですかね。

【海老澤教育長】

小学校は鎌倉、箱根ですね。

【高野委員長】

あ、鎌倉いくんですね

【海老澤教育長】

中学校は京都、奈良ですね

【高野委員長】

じゃあいいんじゃないですか。あの、中世の石像なんか。資料館にありますからつながりますよね。

【海老澤教育長】

あの以前、ちょうど20年くらい前かな、文小の校長さんで石岡から、お坊さん、黒沢しょ  
うざいさん。この辺の、北相馬の仏像研究、簡単な冊子にまとめたのがあるよね。

【奈良委員】

仏像調査したのそんなないのでまとまったファイルがあるはずなんんですけど、例えば南北朝時代、じゃあ利根町どっち側だったのっていう、あの、北朝側だったのが板碑でわかつて  
るんですよね、あのたぶん文化財指定なんですけどね、「ていわれいいた（く）」（←？）で  
したっけ。あの、年号でその年号は北朝側が使っている年号だっていうことで、利根町は北  
朝側だったんだ、じゃあなんで北朝側だった、どうしてどうしてって考えてもらうような、  
なんかそういったきっかけのものが勉強、教科書（聞き取れず）と、あとおもしろいものが  
出てくるかなっていうのが。

【高野委員長】

説明をもうちょっと加える必要があります。はい、だから教科書に出てくる歴史とくっつけ  
るにはもうちょっと説明が必要です。

【古田委員】

あの、あれですか、「ふるさとを学ぶ」で最初のころ私、実は講師をやらせていただいて、  
中学校で使う年表、日本史のばあっと年表と利根町の年表、それをくっつけて講座をしたこ  
とがある。そうしたらまあ90分だから、もうみんなわかつてると思うんだけどけっこう高  
齢者の方、私もそうだけけっこう忘れてるのね。それでもう少しくわしくやってくれない  
かなってあとから言われたんだけど、そんな年表作ったことがありますね。中央のことばか  
りやって町の事も、利根町史の年表とそれをくっつけちゃうんです。そうすると利根町の頃、  
利根町はなんだったんだ、鎌倉時代はなんだったんだというような。

【高野委員長】

それはけっこう大変ですよ。徳川家康は誰でも知ってんでしょうけど、じゃあ利根町の歴史  
わかる人ってなかなか少ない。

【奈良委員】

来見寺とつなげるとかね。

【高野委員長】

いくらでもネタはあるんですよね。利根町って。

【古田委員】

結構ネタあるんですよ。

【高野委員長】

利根町くらいネタあるとこないですよ。このへんでは知らないですよ。

【古田委員】

他のとこ見てて？

【高野委員長】

はい。

【宮崎】

確か、間引き絵馬が浅間山の噴火、先週の「べらぼう」でやってたやつと連動してるんですね。

【古田委員】

あの頃の話が結局、徳満寺の間引きの絵馬、あのへんとつながった

【宮崎】

飢饉になってしまって、ということで。

【高野委員長】

はい、あと何かありますでしょうか。なければそろそろ時間になってきてますので。

【長瀬委員】

個人的なことで、入ってきた時そこの写真を見て。あれ大利根交通のバス、きっとあのおばあさんたち、おばあさんかな、あれ荷物を持って東京に出るんですよね。で、僕が子供の時に小学校の時に四谷に住んでたんですけど、うちの母は買ってましたね。買ってました。だからどっから来たかわからない、千葉から来て中央線もしくは総武線乗り継いで四谷で降りて、あのすごい荷物を持ってやっけている、で、やってたんです。で、今、布佐の駅に行くとあの荷物を載せる台がまだ残っていますよね。東京に向かうホームに、まだ残ってますよ、金属製。写真撮ったんですけど、もう使われないよなあと思いながら、でも捨てないで残してくれてるんだなあと思って。で、布佐のおばあさん、おばあさんかな、あの方々が使ってたんだなあと思ってたんだけど、あれ大利根交通のおばあさん、取手に行ってたってことですか。

【奈良委員】

取手駅ですね。

【○○委員】

布佐なら関鉄使う、でしようから。

【長瀬委員】

僕、利根町に来て30年なんですが最初の頃、関鉄のバス走ってたんですね。あの、布川から布佐へ。なくなっちゃいましたけど、だから、つまり何が言いたいかというと、もう町の人でも、これやってた人ってどれくらい存命なのかなって思うんですね。だから記録として残せないかなと。町の人でも、ああ昔そう言えばそうだったよねっていうことはあると思うんですけども、私が30年前にこちらに、つまり平成に入ってからですけど、そういうふうに来た時にはもうやってなかったと思います。記憶がない。何人かはいたかもしれないけど、あのつまり成田線に、その、なに列車っていうのかな。あれに乗ったおばさんたちがドンと

乗っかって、出てくるみたいなのはもうなかったんですよね、きっと。だから私は、古代史やってた人間なんで古い歴史をなんとなくずっとやってたんだけど、こういうのって残しとかないともうわかんなくなっちゃうかなと思って、じゃあどこで残すんだっていうのは、あの、話聞きながら、それ聞きながらずっと今日考えていたんですけど、それは図書館でやってもいいのかなと思ったり。

【宮崎】

布川に在住の石山さんと言う方がコロナ前まで、東銀座に、未だに、90いくつか80後半だったと思うんですけど、コロナで行かなくなって、という感じで。

【高野委員長】

コロナまでやってたんですか。

【宮崎】

と聞いてます。週に1回か2回

【古田委員】

ニュースでやってましたよね。

【宮崎】

はい。その方のお話に関しては、フェリス女子大の元教授の方がヒアリングされます。これはまち未来（まち未来創造課）にいた時にやってます。

【奈良委員】

その記録はどこかしら。

【宮崎】

どこかにあると思うんですけど。

【久保田委員】

私、高校時代、こういう方といっしょに成田線通いました。

【奈良委員】

そうですよね。電車いましたよね。

【宮崎】

いっしょに乗れるんですか？電車に。

【飯田係長】

バス乗って電車乗って東京に行きますね

【宮崎】

一両目は野菜の行商の方だけとかそういう、専用じゃなくて？

【奈良委員】

一般の人と、みんないっしょですね

【高野委員長】

昔は専用の車両があったんですよ。そこで物々交換、例えば私は餅持ってきて米と交換しようってやってたんですから列車の中で。昔はね。だんだんそれやらなくなつたんでしょ

うけど。

【古田委員】

私、追い出されたのおぼえてる。「おめえらこっち来るんじゃねえ」って。

【高野委員長】

ホームにカゴ置きの専用の台がありましたよね。

【長瀬委員】

だから今ちょっと話、振っただけでこれだけわあっと。もちろん年かさの方から出てくる話、こっちは買った立場なんんですけど、なんかせっかくああいう（壁の行商の写真）のがあって何これという感じになっちゃうのはもったいないなと思ったり、それを私たちがやることかどうかはわからないけど。

【高野委員長】

はい、ありがとうございました。それでは時間になったと思いますので返します。

【司会飯田係長】

はい、高野委員長ありがとうございました。本日は長時間にわたりまして貴重なご審議をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして令和 7 年度第一回歴史民俗資料館運営委員会を閉会とさせていただきます。皆様お疲れ様でした。